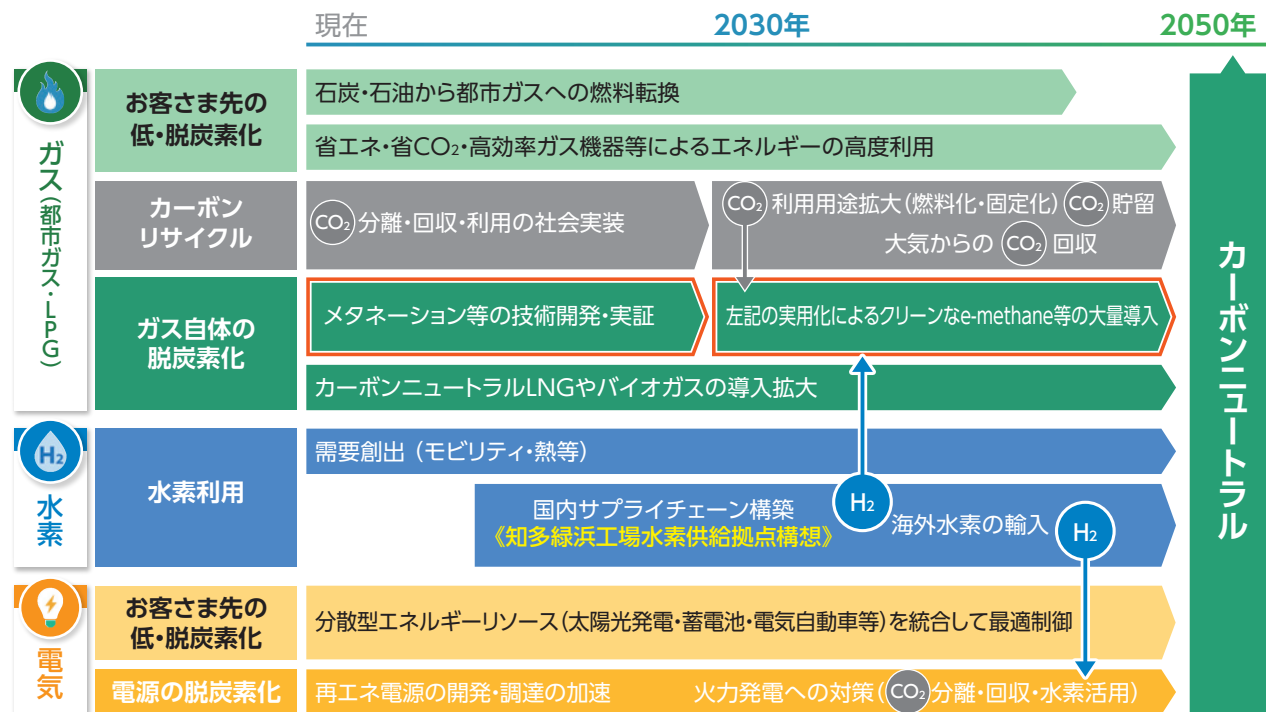


2050年カーボンニュートラルへの挑戦

当社は1922年の創業以来、エネルギー供給を通じて、中部地区の「暮らし」と「ビジネス」を支え、地域とともに発展してきました。主力である都市ガス事業の原料は、石炭系から石油へ、そして現在では化石燃料の中で環境負荷が小さい天然ガスへと、順次転換してきたことに加え、高効率なガス機器の開発ならびに導入促進を通じて、環境負荷の軽減に積極的に取り組んでまいりました。

昨今の世界の地球温暖化に対する危機感の高まりを背景に、2021年7月に「2050年カーボンニュートラルへの挑戦」を策定・公表しました。カーボンニュートラルの実現に向けて、足元からお客さま先の低炭素化、さらには脱炭素化の取り組みを加速するとともに、水素の利用やカーボンリサイクルの技術革新に注力し、将来的なガス自体の脱炭素化に繋がります。

当社グループは、都市ガスとLPGを含めたガス、水素、そして電気の3つのエネルギーを軸として、多様な手段の組み合わせにより、クリーンでカーボンニュートラルなエネルギーシステムの構築を目指します。



2030・2025年度目標および進捗状況

CO₂削減貢献量

2022年度実績	2025年度	2030年度
30.7 万t	100万t	300万t

都市ガス・LPGへの燃料転換や高効率機器の導入、さらにはガス自体の脱炭素化や、再生可能エネルギーの導入拡大によるお客さま先のCO₂排出削減に加え、CO₂自社排出量の削減に努め、事業活動を通じたCO₂削減に貢献します。

再エネ電源取扱量

2022年度実績	2025年度	2030年度
9.3万kW	25万kW	50万kW

国内外における太陽光、バイオマスなどの再生可能エネルギー電源の開発、保有、調達など、電力事業における再生可能エネルギー電源取扱量を拡大します。

基本的な考え方

エネルギー供給には引き続き「3E+S」の視点が重要であり、カーボンニュートラルを実現するうえでも、安定供給と経済性のバランス、すなわちエネルギーのベストミックスが不可欠です。ガスの強靱な導管インフラを有効に活用するとともに、ガスと再エネの相性の良さを活かすことで、多様なエネルギーのベストミックスを追求し、地域のレジリエンス強化に貢献します。

また、カーボンニュートラルの実現には、革新的な技術開発が必要であることに加え、それを乗り越えるためには多大な時間とコストが必要となります。従って、先ず確立された技術を用いた低・脱炭素化を着実に進めたうえ、将来的にはガス自体の脱炭素化の実現により、カーボンニュートラルへの円滑な移行が可能となると考えます。

将来の絵姿

当社は、関係する皆さまとの幅広い連携のもと、ガス(都市ガス・LPG)・水素・電気の3つのエネルギーを軸に、カーボンニュートラルに資するエネルギーシステムの構築を目指します。

〈ポイント〉

ガス LPG 都市ガス	<ul style="list-style-type: none"> 短～中期では、環境性に優れたガスを最大限活用しつつ、省エネやエネルギーの高度利用を進めることで、着実に社会全体のCO₂排出量の抑制を図ります。 また、先行する当社の「カーボンリサイクル技術」にさらに磨きをかけるなど、技術開発を通じて、お客さま先の低・脱炭素化を牽引します。 中～長期の視点からは、水素とCO₂からガスを合成するメタネーション等の技術開発・実用化に取り組み、それによるクリーンなe-methane等の大量導入を通じて、ガス自体の脱炭素化を実現し、カーボンニュートラルへの円滑な移行を図ります。
水素	<ul style="list-style-type: none"> 自動車産業を中心とする産業集積地である中部地区の特性を踏まえ、モビリティや熱需要等向けの水素の需要創出に向けた取り組みに注力します。 並行して、急速に高まる水素ニーズに応えるため、知多緑浜工場の水素供給拠点化構想を早期に具体化し、中部地区における水素サプライチェーン構築に挑戦します。
電気	<ul style="list-style-type: none"> 分散型エネルギーリソース(太陽光・蓄電池・電気自動車等)の有効活用に加え、再エネ電源の拡大を中心とする電源の脱炭素化に取り組みます。

